



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

東京都 渋谷区立広尾中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**：高平 慎士 先生（陸上競技 短距離）
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
- **期 日**：2024年2月22日(水)
- **ク ラ ス**：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会の3大会に陸上競技の短距離種目で出場したと自己紹介。運動の時間はオリンピックバリューを意識しながら取り組んでほしい。準備運動は、2人組で様々なじゃんけん勝負をして、どちらかが相手の周りを1周走るゲームを実施。その後、縦2列になり2人組を作る。列毎に呼び名を付け、呼び名の合図で追いかける列と逃げる列を瞬時に判断して走る運動を実施。

○主運動等



・主運動はボール取り競争を実施(各班練習含む全6回)。順番にローテーションで4つの班ずつ実施。体育館中央にバスケットボールを7個置き、中央または相手の陣地からボールを取り、自陣に置いたフラフープ内にボールを3個揃えた班の勝ち。ただし、複数名でボールを取りに行くことや、ボールを抑えることは禁止。またスタート合図の前に飛び出すとフライングとして1歩後ろからスタートする。オリンピックでフライングにより失格すると、それまでの努力が全て台無しになってしまう。ルールを守ることはオリンピックバリューにつながる。



・運動の時間を振り返り、先にボールを2個確実に取ることで上手くいった班や、もっと視野を広げれば良かったと反省する班もあった。成功は次のステージに進む自信になり、失敗の原因を考えることは自分自身の成長につながる。座学の時間は、皆が運動の時間に1人1人が何を頑張ったか、班で勝つためにどんな工夫ができたか、友達同士お互いを尊重できたか等を振り返り、オリンピックバリューや仲間との関係について、これからの生活にどう生かせるかを考える時間にしたいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：高平 慎士 先生（陸上競技 短距離）
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
- **期 日**：2024年2月22日(水)
- **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像とスライドを使用して自己紹介。アテネ大会に出場後、それまで考えていなかった海外へ目を向けるようになり、目標意識にも変化が起こる。世界チャンピオンを指導したコーチと出会い、そのコーチのもとで練習する。技術面だけではなく目標への向き合い方を情熱的に指導してくれた。選手として世界で戦える時間は短いからこそ、毎日の練習を無駄にすることはできない。指導者や仲間を支えられ、4年後の北京大会で銀メダルを獲得することができた。

○個人ワーク～グループワーク等



- 発問：自分にとってのフレンドシップとは何かを考えよう。
- 発表：エクセレンス：「一緒に成長する」「新しいことに挑戦するきっかけになる仲間がいること」等
- フレンドシップ：「信頼する」「信じる心」「お互いのことを考える」「協力する」「世界平和を願う気持ち」等
- リスペクト：「気遣いをする」「相手を褒める」「尊敬し合うこと」「思いやり」「感謝する」等



・座学の時間を振り返り、今日学んだオリンピックバリューをこれからの皆の生活の中に生かしてほしい。皆が今考えることや感じることは、同じ時間を過ごす同じ年代としか共有できない価値観がある。だからこそ周りにいる友達を大切に日々学校生活を過ごしてほしい。自分と考えや答えが違う仲間の意見でも、その意見に耳を傾け色々な経験をしてほしい。その中で自分自身の価値観を見つけてほしい。世界平和も含め、皆が仲良く過ごしてほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：高平 慎士 先生（陸上競技 短距離）
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
- **期 日**：2024年2月22日(水)
- **ク ラ ス**：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・陸上競技の短距離種目でアテネ、北京、ロンドン大会の3大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューはオリンピックだけではなく、皆の日常生活にも存在する価値だ。運動の時間は、楽しく体を動かしながらオリンピックバリューを感じてほしい。準備運動は、2人組で様々なじゃんけん勝負をして、どちらかが相手の周りを1周走るゲームを実施。その後、縦2列になり2人組を作る。列毎に呼び名を付け、呼び名の合図で追いかける列と逃げる列を瞬時に判断して走る運動を実施。

○主運動等



・主運動はボール取り競争を実施(各班練習含む全6回)。順番にローテーションで4つの班ずつ実施。体育館中央にバスケットボールを7個置き、中央または相手の陣地からボールを取り、自陣に置いたフラフープ内にボールを3個揃えた班の勝ち。ただし、複数名でボールを取りに行くことや、ボールを抑えることは禁止。またスタート合図の前に飛び出すとフライングとして1歩後ろからスタートする。ゲーム後半はなかなか決着が着かず白熱していた。ゲームの意図を良く理解し、チームワーク良く取り組んでいた。



・運動の時間を振り返り、勝つことだけが全てではなく、皆が一生涯懸命に取り組めたのは、勝ちたい気持ちと1人ではできないことを仲間と協力することで成し遂げる喜びを感じたからだ。周りをもっと見れば良かったとの意見も出たが、失敗を振り返り反省することで次につながり、相手を思いやる気持ちを持つことができる。座学の時間は、自身の競技人生の経験を話しながら、オリンピックバリューについて更に皆と考える時間にしたいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：高平 慎士 先生（陸上競技 短距離）
【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
- **期 日**：2024年2月22日(水)
- **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像とスライドを使用して自己紹介。北京大会では銅メダルをいただいたが、優勝した国の1人がドーピング違反となり順位が繰り上がり、10年後に銀メダルを手にするようになる。違反をしてしまった選手とは共に切磋琢磨した仲間だった。銀メダル獲得は嬉しい反面、悲しい出来事でもあった。皆も校則や決まり事等、様々なルールの中で毎日を過ごしていると思うが、ルールを守らないことで周りの人の人生を変えてしまうこともある。ルールを守る大切さを忘れないでほしい。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：自分にとってのフレンドシップとは何かを考えよう。

発表：エクセレンス：「誰も嫌な気持ちにならない言動」「友達と一緒に挑戦する」「コミュニケーションをとる」等
フレンドシップ：「1人にならない」「自分を支え、助けてくれる存在」「笑い合える」「不安がない」「離れたら寂しい関係」等
リスペクト：「お互いを尊重し合う」「何でも相談できる」「信頼できる」「互いに助け合う」「励まし合える存在」等



・座学の時間を振り返り、グループワークでは皆がオリンピックバリューについて真剣に考え、意見を出し合ってくれたことはとても素晴らしい。これからの日常や学校生活にもオリンピックバリューを生かしてほしい。今皆が考え感じることも、また様々な経験は、周りにいる同じ時間を共有する仲間と同じ目線で感じることができる。価値観は必ずしも共通することばかりではないが、自分と違う意見にも耳を傾け、相手を尊重する気持ちを忘れずに仲間を大切にしてほしいと話し、授業終了。

■修了証贈呈

